

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(1 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

ブラフマニズムとヒンドウイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

Brahmanism and Hinduism: Change and Continuity in South Asian Society and Religion

2. 研究代表者氏名

藤井 正人

Fujii, Masato

3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

ブラフマニズム(バラモン教)は、ヴェーダ文献に基づく宗教儀礼と生活・社会規範を含む古代インドの支配的宗教体系である。その後の仏教やジャイナ教など、ヴェーダに基づかない非正統派の宗教の成立と前後して、ブラフマニズムの内部および周辺から、新しいタイプの信仰形態、宗教思想、宗教儀礼をもつヒンドウイズム(ヒンドゥー教)が形成されていった。しかし、ブラフマニズムはヒンドウイズムへと移行・解消したのではなく、両者はインドの社会と宗教の二つの基軸として、現代に至るまで並存し、混淆し、互いに影響を与え合ってきている。本研究は、ブラフマニズムとヒンドウイズム、およびそれらと距離をおきながらも共存してきたその他の宗教との通時的および共時的関係に関する研究を通して、南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性を解明することを目的としている。

Brahmanism and Hinduism, although the latter succeeded the former historically, have coexisted, mingled with, and influenced each other as two fundamental religious and social systems in India. The present three-year research project intends to shed fresh light on change and continuity in South Asian society and religion by studying diachronic and synchronic relationships between Brahmanism, Hinduism, and other religions such as Buddhism and Jainism which keep a certain distance from these two mainstreams.

5. 本年度の研究実施状況

本年度の研究実施状況【日】本研究は、3年の研究期間で行った共同研究(B班)「ブラフマニズムとヒンドゥイズムー南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」をC班として1年間延長したものである。過去3年の研究期間では、半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催してきた。延長期間である今年度は、クールに分けずに、これまでのテーマと重なりをもたせながら、十分に扱ってこなかった諸点(信仰、教理、聖典など)へも研究の視野を広げた。2月に共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズムー南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」の最終シンポジウムとして、「古代・中世インドの社会と宗教ー『聖典』の諸相ー」をテーマに第7回シンポジウムを京都大学で開催する。

6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

7. 本年度の研究実施内容

- 2019-05-17 「『転輪王』観念の展開ーヴェーダ、仏典、叙事詩の比較」 発表者 手嶋 英貴 京都文教大学
- 2019-06-14 「インド密教における聖典の受容と展開」 発表者 菊谷 竜太 白眉センター
- 2019-07-12 「パーニニ文法学における聖典と言語」 発表者 尾園 絢一 東北大学・非常勤
- 2019-09-27 「『海幸山幸』神話と『スダナとマノーハラー』物語」 発表者 中村 史 小樽商科大学
- 2019-10-25 「『バーガヴァタ註』におけるバクティと Kandatraya」 発表者 眞鍋 智裕 日本学術振興会特別研究員
- 2019-12-22 「無遮会のおこりー仏典、ヴェーダ、叙事詩の比較から見えてくること」 発表者 手嶋 英貴 京都文教大学

8. 共同研究に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

藤井正人、井狩彌介、田中雅一、石井美保

学内

赤松明彦(白眉センター)、横地優子(文学研究科)、天野恭子(白眉センター)、菊谷 竜太(白眉センター)、八木綾子(文学研究科・非常勤講師)、山口 周子(文学研究科・非常勤講師)、

高橋健二(文学研究科・博士後期課程)、趙 世弘(文学研究科・博士後期課程)

学外

伊澤敦子(国際仏教学大学院大学・図書館職員)、井田克征(金沢大学・客員研究員)、永ノ尾信悟(東京大学・名誉教授)、大島智靖(東京大学・研究員)、置田 清和(上智大学)、小倉智史(東京外国語大学)、尾園絢一(東北大学・専門研究員)、梶原三恵子(東京大学)、河崎豊(東京大学)、川村悠人(日本学術振興会海外特別研究員)、小林 史明(東京大学・博士課程)、小林正人(東京大学)、佐々木 雄太(東北大学・博士課程)、佐藤直美(宗教情報センター・研究員)、柴崎麻穂(中村元東方研究所・専任研究員)、高橋 孝信(東京大学・名誉教授)、竹崎 隆太郎(東京大学・博士課程)、田辺明生(東京大学)、手嶋英貴(京都文教大学)、堂山英次郎(大阪大学)、中村 史(小樽商科大学)、名和隆乾(大阪大学)、西村直子(東北大学・非常勤講師)、沼田一郎(東洋大学)、眞鍋 智裕(日本学術振興会特別研究員)、山田智輝(大阪大学・招へい研究員)、吉水清孝(東洋文庫・研究員)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

なし

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし

